

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
E140P004		教育支援実践研究 (Practical study of learning support)							対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
選択必修	2	3・4	教育学部		他	日本語		複数(共同)							
担当教員	氏名 前田 菜摘, 森下 寛, 麻生 良太 E-mail managing-sp@oita-u.ac.jp 内線														
授業の概要	学校現場を継続的に訪問し、校外学習なども含む教育現場のさまざまな教育活動を観察したり、教科指導の補助などを体験したりすることによって児童・生徒とコミュニケーションを通じてふれあい、教育の厳しさや喜びを体験することを通して、教職を目指す者としての自覚を高める。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	児童・生徒とコミュニケーションを通じてふれあうことができる。								○						
目標2	体験から学ぶということについて自覚することができる。												○		
目標3	教職の実践について自分の考えを深めることができる。											○			
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									3			4	3		
授業の内容															
1	サポート活動(1)														
2	サポート活動(2)														
3	サポート活動(3)														
4	サポート活動(4)														
5	サポート活動(5)														
6	サポート活動(6)														
7	サポート活動(7)														
8	サポート活動(8)														
9	サポート活動(9)														
10	サポート活動(10)														
11	サポート活動(11)														
12	サポート活動(12)														
13	サポート活動(13)														
14	サポート活動(14)														
15	サポート活動(15)														
ラ ア ク ニ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認	○	大学における学修・教育実習等で学んだ知識をもとに、学校現場における活動・問題解決を体験する。活動の振り返りや大学担当教員・活動校教員とのコミュニケーションをもとに省察的に教師としての力量を高める。				工 夫 そ の 他 の	学校での活動は以下に示す活動の合計15ポイント以上を基本とする。1ポイント→午前、午後、放課後における数時間程度の活動。2ポイント→校園の授業開始～授業終了時限までの1日の活動(6時間程度)。3ポイント→宿泊を伴う活動							
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	・活動参加にあたり、大学において実施する説明会、面談、事前指導を受けること(3h)。 ・活動前に活動校との打ち合わせを行い、学習支援を円滑に進めることができるよう、準備や予習を行うこと(20h)。													
	事後学修	・毎回の活動後に自身の活動を振り返り、報告を提出すること(20h)。 ・大学において実施する中間事後指導を受けること(2h)。													
	想定時間合計	45													
教科書	特に指定しない														
参考書	田島充士・中村直人・溝上慎一・森下寛(編)(2016)「学校インターンシップの科学 -大学の学びと現場の実践をつなぐ教育-」ナカニシヤ出版 ISBN978-4-7795-1048-9 価格4,000円+税														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	15ポイント以上の活動申告	30%	○									
	毎回の活動記録の提出	30%		○	○							
	最終レポートの提出	40%		○	○							
		以上の条件を満たすことが単位履修の前提である。そのうえで、活動記録・最終レポートの内容を踏まえて評価を行う。										
注意事項	この科目は、大分市内の学校で支援活動を行うため、支援要請の内容によって、対象学年・受講人数を制限することがある。実際に学校現場で体験活動を行うことから、受講者は教師としての使命感、責任感を持つものに限る。活動態度の悪いものは途中で活動を打ち切ることがある。											
備考	この科目は『地域創生教育科目』です。また、履修登録方法については、前期に説明会を行うので、掲示に注意しておくこと。「教育支援実践研究」は「教育支援実践研究」を過去に履修した者を対象とした科目となります。											
リンク												
	URL											